

図書館だより

Bulletin of the Hokkai-
Gakuen University
Library



ほんのむし

2

vol.39

北海学園大学附属図書館報
第39巻2号(通巻217号)

2017-12-1

特集①

本を守り、本を焼く

人文学部 教授・図書館長 大谷 通順

特集②

ルソーの足跡をたどる

経済学部 教授 小林 淑憲

おすすめ図書

人文学部 非常勤講師 浅野 正道
工学部 非常勤講師 郡田 尚子

書店めぐり

▶ちいさなえほんや
ひだまり

4階アクティブ・エリア 「AL」増設の お知らせ

1階デジタル・サイネージのご紹介／編集後記／図書館からのお知らせ

本を守り、本を焼く

人文学部教授・図書館長

大谷 通順
おおたに みちよ



北

宋の第3代皇帝、趙恒の「勉強しなさい(勸学詩)」という詩。高等文官試験の科挙に合格することが、栄達への道につながる。独特の体制と価値観が背景にある。

財産を増やすために、肥えた田んぼを買う必要はない。本のなかには穀物がどっさりあるから。

ゆったりと暮らすために、豪邸を建てる必要はない。本のなかには黄金の建物があるから。

お出かけの車がなくてもご心配なく。本のなかには馬が群れているから。婚活のつて、がなくてもご心配なく。本のなかには玉のような美女がいるから。

男子が日ごろのこころざしを遂げるには、明るい窓のそばで「六経」(儒学の基本テキスト)をひたすら読むことだ。

清の蒲松齡の怪異小説集『聊齋志異』におさめられた「読書バカ(書痴)」という話に、この詩が出てくる。主人公は、

亡き父がかつて座右に貼ってくれたこの詩を、毎日朗誦し、堅く信じて実行していた。しかし根がバカなので科挙に合格したことはない。家の財産もあらかた売りつくしたが、それでも父の遺した膨大な蔵書は1冊たりとも売りに出さなかった。

そんなかれがある日、歴史書の『漢書』第8巻に読みいたると、本にはさまっていた絹製のしおりの人形が、むくむくとほんものの美女に変わり、かれと過ごしてくるようになる。交際中、彼女は男に読書を禁止し、囲碁やその他のゲームを教えようとするが、男の視線はともすれば本に戻りがち。そのたびに彼女は怒って『漢書』第8巻中に姿を消し、男は慌てて本を探すという騒ぎだ。また、夜がふけてベッドを共にしても、読書バカには男女の営みがわからず、美女から手ほどきをうける始末。しかし、そのかいあって、ふたりは男児をさずかる。

そのような幸せな日々もつかの間、美女が突然いとまごいをする。自分が長居しては災難にままわれることを予知したのだ。男は泣いて、子どもを

見捨てないでくれと懇願する。美女のほうでも、蔵書をすべて処分してくれば災いを避けられるかもしれないと条件を出す。だが、いかにせん書物は美女の「故郷」であり、男の「性命」であると、男は聞く耳をもたない。案の定、美女のうわさを聞きつけたお役人が、彼女を一目見ようと連行を命じる。美女は姿をくらまし、家宅搜索のじゃまだといって、家じゅうにあふれていた蔵書は庭で燃やされた。

中国の伝統的知識人にとって、書物が「勉強しなさい」の詩のように功利的な側面をもつと同時に、実用を超えたフエティシズムの対象でもあったことを如実に語る悲喜劇である。

書物が焼かれることの悲哀を語った歴史記録や著述・創作は、枚挙にいとまがない。あえてそのなかから生々しい記憶をとりあげると、鄭振鐸『書物を焼く』の記(安藤彦太郎・斎藤秋男「訳」、岩波書店、1954)がある。日本軍占領下の上海ですすめられた言論統制と、自衛や生活のためにおこなわれた蔵書処分のありさまが

凄絶だ。鄭振鐸は著名な文学者であると同時に、蔵書家であり、かつまた図書館学者でもある。わたしのようになつまらぬ学徒が求める、清代カードゲームの指南書の果てでさえ、中国国家図書館蔵の善本にはしばしばかれの蔵書印を発見する。よくぞこれを守ってくださったと、ひたすら頭が下がる思いである。

一方、侵略した日本側にも、満鉄奉天図書館長の衛藤利夫、満鉄大連図書館長の柿沼介、満州国立奉天図書館長の弥吉光長のような愛書家がいって、懸命に戦災から図書を守ろうとした。その証として、わたしが遼寧省図書館で出会うことのできた、多数の清代カードゲーム指南書には、幻の「満州国立中央図書館蔵書印」が押されていた(日本の敗戦にともない、結局、中央図書館は建たなかったが、図書は無事に遭った)。

北海道大学附属図書館におさめられた一冊一冊の本にもそれぞれ来歴がある。本との一期一会をたいせつにしたいものである。



おすすめ図書

Recommended Books

暗黒日記

1942-1945

清沢冽著（岩波文庫・2004）

本館閉架B1 今村
210.75/Ki91

人文学部 非常勤講師

あさの まさみち
浅野正道

いわゆる「戦時中」という言葉で表される、太平洋戦争下の日本の状況について、小説や映画のたぐい（『永遠の0』『この世界の片隅に』など）を通じて触れたことのある人も多いだろう。今回、紹介する『暗黒日記』は、そうしたフィクションとはまた違った形で、現代に生きる皆さんを「戦時中」とつながてくれるものだと思う。

著者の清沢冽は国際派の評論家で、筋金入りの自由主義者としても知られた人物。この書物は彼の個人的な日記だが、客観性・実証性も兼ね備えていて、貴重な歴史的資料にもなっている。そこにおいて冷静な批評眼をもって記されるのは、無計画に始めた戦争により多大な犠牲を払いながら、「国難」の名のもとに民衆を駆りたてて、なおも無謀な戦い（悪名高いインパール作戦など）を強行しようとする、陥落間近の混乱した大日本帝国の姿だ。

とはいえ、清沢は破滅へと突き進んでいく自国をただ傍観していたわけではない。この日記には他方で、言論統制に屈することなく、彼が自らと同じ自由主義者たちと積極的に交流し、終戦、さらには戦後に向けて意見を交換しあっているさまも描き出されている。そして、このネットワークの中には、GHQによる日本国憲法草案の基礎になったとされる、憲法研究会草案の作成に携わった馬場恒吾・杉森孝次郎や、のちに総理大臣となる芦田均・石橋湛山らも含まれていたのだった。

不幸なことに、清沢は終戦の直前に急病で亡くなってしまった。しかし、彼の遺志は知人・友人たちに受け継がれ、戦後レジームともいわれる、穏健で、平和を指向する国のあり方が新たに築かれていったといえる。このあり方が岐路に立っているとされる現在、その源流を示す、『暗黒日記』を改めて読んでみることは大きな意味ではないだろうか。

美と芸術の論理

美学入門（新版）

木幡順三著（勁草書房・1986）

本館閉架701/Ko11

工学部 非常勤講師

こおり たなお
郡田尚子

子どもの頃、音楽や絵画作品に「これは良い」「あれはダメ」という判断が下されることに對して、何か明確な基準があるのだろうかと感じていました。「美学」という学問を学べば、それがわかるようになると期待しその世界に足を踏み入れてから、本書を何度も参照してきました。本書では、美学とは個々の作品を論評するものではなく、私たちの感性と美」の概念の本質をとらえるものであるとされています。そのため、子どもの頃の芸術に関する疑問を美学にぶつけるのは的外れだったかも知れませんが。そのうえ、「本質」とは便利な言葉ですが、何をもって本質とするのかという新たな問いを生み出します。

本書は、古代から近現代までの西洋・東洋の著作を踏まえながら丁寧に探究しています。感性についても「私たちはなぜ何かに特別な価値を見出そうとするのか」という私たち自身の視点からだけではなく、むしろ「特別な価値が私たちに現れてくるのはなぜか」と外からはたつきかけてくるものとして本質を考えています。外からとは、普段意識をしていない自らの身体、また技術や対象などが含まれます。

もちろん芸術の経済的・社会的価値のほうも常に問われる問題です。幸いそうした問題を論じた本は近年数多く出版されています。けれども芸術の本質を問う学問では、「人間にとっていかなる価値があるか」がさらに論議され、美学はその議論の道筋を吟味する役割を担うと言えます。身近で直接的な問いを経て、それでも疑問を感じたとき、本書を入口として先人たちの考えに触れてみてください。木幡先生は実感を込めて次のように述べています。

「美学は芸術の実証的研究や美の探索の旅路で何らかの挫折を経験した者の魂を癒す妙薬たらんとするのである」。

ルソーの足跡をたどる

経済学部教授 小林 淑憲
こばやし よしのり



昨

年9月から1年間の在外研修の機会に恵まれ、ジュネーヴ大学文学部の客員研究員として、スイスに滞在しました。研究テーマは、長年対象としてきたジャン・ジャック・ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 一七二一—一七七八) の、とりわけ宗教思想を育んだ背景を模索することでした。ルソーと言えば、『学問芸術論』や『社会契約論』『エミール』などの著作で、文明論や政治、教育その他の幅広い分野に影響を与えた文筆家として知られています。少年時代からほとんど天涯孤独の境遇に生きたルソーは、執筆活動や写譜に加えて、貴族の家庭教師や外交官秘書などを務めることで糊口をしのぎ、フランスやイタリア、スイス、イギリスの各地を放浪する人生を送りました。

今回の研修成果の一部に、いくつかのゆかりの地を初めて訪問できたことが挙げられます。ルソーは10歳だった一七二二年から二四年まで2年間、今ではフランス領となっているボセー村のランベルシエ牧師に預けられました。当時の牧師館は取り壊され、今ではそのすぐそばに司祭館が、サレーヴ山の麓にひ

っそりと佇んでいます。司祭館にはその壁にルソーの滞在を示す碑(ブラック)が埋め込まれ、前庭には若きルソーの彫像も建てられています。ルソーはここでカルヴェニスムやラテン語などを学んだと考えられます。



ボセー村司祭館のブラック

ルソーが一七三一年から四二年まで断続的に滞在したシャンベリには、彼の恩人にして愛人だったヴァランス男爵夫人の館レ・シャルメットが博物館として遺されています。館の当時の調度品は取り払われたり、内装も塗り替えられたりしたようですが、建物自体は十分に当時の面影をとどめています。彼はここで祖国ジュネーヴの内乱を憂えた書簡詩『ヴァランス男爵夫人の果樹園』などの作品を執筆します。



レ・シャルメット外観

『新エロイズ』や『社会契約論』『エミール』といった代表作はモンランシー



モンランシーの書斎

で書き上げられました。ルソーが一七五七年末から六二年半ばまでの約4年半を過ごした小さな家は、高台に『ルソー博物館』として遺されています。当時は森に囲まれた静かな場所だったようですが、母屋に隣接した書斎は、机と椅子と暖炉だけの6畳ほどの小さな空間です。ルソーは集中して執筆できたであろうと想像されます。

『エミール』が一七六二年に出版されると、その第4編の宗教論がパリ大学神学部の告発を受けて、著者に対する逮捕令状がパリ高等法院から発付されたため、ルソーはスイスに逃亡します。ジュネーヴからも入国を禁じられたルソーは、結局プロシア領ヴァル・ド・トラヴェールのもチエ村に3年間ほど滞在します。その家がまた『ルソー博物館』として遺されています。ここで彼は『エミール』と『社会契約論』とを弁護する『山からの手紙』、また専ら『エミール』を弁護する『ボームンへの手紙』を執筆しました。

25年以上前に書かれたルソーの著作ですが、彼の思想は今なお私たちの心に強く訴えかけます。次の引用は、『エミール』からのものですが、これは私たちがいかに周囲の偏見に囚われ、そのために良心を抑圧しがちであるかを鋭く指摘しています。

く指摘しています。

「良心は臆病である。それは世間から離れたところと安らぎを好む。世間と喧噪は良心を怯えさせる。人は偏見から良心が生まれると言うが、その偏見こそ、良心のもっとも凶暴な敵なのだ。偏見の騒々しい声は良心の声をかき消し、聞こえなくしてしまうのである。」

名高いルソーの主要作品については、『学問芸術論』や『人間不平等起原論』『新エロイズ』『社会契約論』『エミール』『孤独な散歩者の夢想』などを岩波文庫その他で読むことができますし、ほとんどの作品を白水社版『ルソー全集』で読むことができます。



モンランシーの書斎にて筆者記念撮影

今回紹介した本

『学問芸術論』『人間不平等起原論』: 『ルソー全集』第4巻に所収
[本館閉架135.48/R76/4]

『社会契約論』: 『ルソー全集』第5巻に所収
[本館閉架135.48/R76/5]

『エミール』、『ボームンへの手紙』: 『ルソー全集』第6、7巻に所収
[本館閉架135.48/R76/6、135.48/R76/7]

『新エロイズ』: 『ルソー全集』第9、10巻に所収
[本館閉架135.48/R76/9、本館閉架135.48/R76/10]

『山からの手紙』: 『ルソー全集』第8巻に所収
[本館閉架135.48/R76/10]

『孤独な散歩者の夢想』: 『ルソー全集』第2巻に所収
[本館閉架135.48/R76/2]

絵本専門店兼ギャラリー ちいさなえほんや ひだまり

Report

書店めぐり

札幌にある書店をご紹介します！

札幌市手稲区新寒6条5丁目14-3 ☎011-695-2120 🕒10:00～19:00 🔥火～木曜日



札幌市内で評判の絵本専門店兼ギャラリー「ちいさなえほんや ひだまり」は手稲区新寒の閑静な住宅街にある。お店の中に入ると目に入ったのは、棚に整然と並ぶ2500タイトルの絵本。「自分でお客さんに絵本の内容や作者について説明できるのはこのくらいの数、これ以上は増やさないようにしている」と代表の青田正徳さんは語る。絵本が並べられた棚の近くには積木や人形などのおもちゃがあり、子どもが遊んでいる間に親や祖父母が本選に集中できるようにとの心遣いがされている。



そんな絵本への情熱あふれる青田さんは1952年に遠軽町のハッカ農家の8人兄弟の末っ子として生まれ、高校卒業後、製パン会社、ミシンのセールス、スポーツ用品店勤務を経て、27歳のときに児童図書の販売代理店に入社し15年間勤務した。絵本専門店を開業するきっかけは、札幌にたった1件あった絵本専門店が閉店したことだった。札幌でたった1件の絵本専門店すら残せないという悔しさを感じていたとき、喫茶店を営む知人から店の一角に絵本を並べてはどうかと提案され、1994年4月2日（青田さんの誕生日）に「ちいさなえほんや あ・うん」を開店した。翌年に西野のアパートに店を移転し、店名を現在の「ちいさなえほんや ひだまり」に変更。2度の移転を経て現在の一軒家で営業している。開業当初からより多くのお客さんに絵本の魅力や作者の世界観を伝え、また良質な絵本を提供したいという青田さんの熱い思いから絵本作家の原画展・絵本に関する講演会・新刊紹介などを掲載した絵本通信「ひだまり」の発行・定期購読「ひだまりブッククラブ」を続けているとのこと。

「はらぺこあおむし」は知っていますか」

お店の中にある絵本を読んでいると青田さんがベストセラーの『はらぺこあおむし』を差し出しながら私に質問した。「知っていますよ」と答えたと青田さんは絵本のページをめくりながら、日曜日に生まれたあおむしがいろいろなものを食べて成長していく。その過程で食べ過ぎておなかを壊すが、あおむしはその失敗からきちんと学んで、さなぎになり、さなぎから蝶になる。青田さんはここまで説明し、「ところでこの蝶はオスですか、それともメスですか」と私に質問した。蝶の性別について一度も考えたことがなかったことを伝えたと青田さんは「この英語版にはちゃんと蝶



の性別を指す代名詞、heが書かれているんですよ」とニコニコしながら教えてくれた。1冊の絵本をいろいろな視点から想像する楽しみがあるとは、目からうろこだった。

「スマートフォンやタブレット、電子書籍の普及により私たちの生活は便利になったが、その反面、人と人が直接目を合わせながら会話をする機会が減り、相手を思いやることも減った。精神的にも貧しくなった。絵本は子どもが読むものと思う大人が多いが、大人こそ読むべきだと思う。絵本の絵や簡潔な文を読むことで想像力や感受性が育まれ、精神的にも豊かになる。そこが絵本の魅力だと思う」と青田さんは語る。

青田さんの話と絵本選びに夢中になっているとあっという間に2時間が過ぎていた。

大人も子どももワクワクしながら絵本の世界に浸ることができる空間だ。

～青田さんが大学生に薦める絵本～

- ▶『スーホの白い馬』 大塚 勇三／再話 赤羽 末吉／画 1967 福音館書店
- ▶『ナヌクの贈りもの』 星野道夫／写真・文 1995 小学館
- ▶『トンちゃんってそういうネコ』 MAYA MAXX／絵・文 1999 角川書店

参考文献：1.『Otone』Vol.43号 46p-47p 2012 / 2.『絵本通信 ひだまり』318号 2017
3.『愛しのはなかさい人物語』長谷川圭介著 2014 エイチエス
4.ブログ「ちいさなえほんプロジェクト」(<https://blogs.yahoo.co.jp/ehonnomotyadaisukida>)

(文責：図書館職員 中井)



Active Learning Room

概要説明

ALは“Active Learning Room”の略称です。学生が主体となつて行うグループ学習のための部屋ですが、AL-1のみ、ゼミや講義など、教員が主体となり学生に対して行う学習でも利用することができます。

これまでは「AL-1～2」まででしたが、9月に「AL-3～6」が増設されました。現在は「AL-1～6」まで利用可能です。

注意事項

※原則2名以上での利用。
 ※アクティブ・エリア内での食事はご遠慮ください。但し蓋付飲み物は持ち込みOKです。
 ※通常利用の場合、利用人数によっては他のグループと相部屋になることがあります。
 ※貸切での利用を希望される場合は、利用日の4週間前から前日までの間に4階サポーターデスクで予約手続きをお取りください。なお、部屋の予約と同時に機器等を予約することも可能です。
 ※グループ学習以外の用途でアクティブ・エリア（AL-1～6、GS-1～2）を使用するのはご遠慮ください。
 ※座席数に限りがあるため、教室やゼミ室としての恒常的な使用はお断りします。
 ※許可なく無断で撮影するのはご遠慮ください。

貸出物品

■タブレットPC (Surface) ■ノートパソコン
 ■ホワイトボード (大・中・小)
 ■レーザーポインター & スライドページ送り用リモコン
 ■録画機材 ■延長コード
 ■車いす用ポータブルスロープ ■ひざかけ他

利用時間

月～金……………10時～21時
 土・長期休業期…10時～17時


無線LAN設備

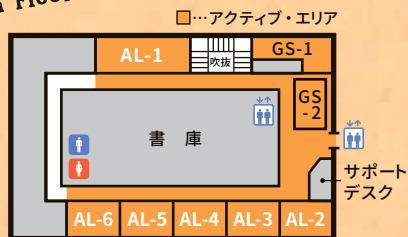
（個人持ち込みPCは別途大学生協にて利用手続きが必要）

図書館4階アクティブ・エリアにある「AL」が増設されました。アクティブ・エリアの「AL」が空いてなくてなかなか使うことができなかった学生の皆さん、利用するチャンスです！

「AL」増設のお知らせ



4th Floor Map



Active Learning Room 各ルーム紹介

AL-1



〔収容人数〕
24名(1～8グループ)

〔設備〕
可動式机8卓、イス24脚、
プロジェクター、ホワイトボード4台

AL-2



〔収容人数〕
12名(1～6グループ)

〔設備〕
可動式机6卓、イス12脚、
プロジェクター、ホワイトボード3台

AL-3



〔収容人数〕
12名(1～2グループ)

〔設備〕
長机4卓、イス12脚、
プロジェクター、ホワイトボード1台

AL-4



〔収容人数〕
12名(1～2グループ)

〔設備〕
長机4卓、イス12脚、
プロジェクター、ホワイトボード1台

AL-5



〔収容人数〕
12名(1～2グループ)

〔設備〕
長机4卓、イス12脚、
ホワイトボード2台

AL-6



〔収容人数〕
12名(1～2グループ)

〔設備〕
長机4卓、イス12脚、
ホワイトボード1台

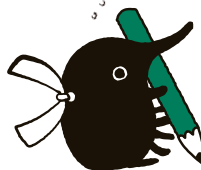
1階 デジタル・サイネージのご紹介

図書館1階では2016年4月よりデジタル・サイネージと呼ばれる電子情報を配信する機器を設置しています。現在、毎日(休館日を除く)図書館1階から4階アクティブ・エリアの利用方法や注意事項、休館情報・イベント情報などを配信しています。今後もさまざまな情報を配信していきますので、注目してくださいね。

INFORMATION!



編集後記



今年も残りわずかとなりましたね。これから忘年会やクリスマスなどで街へ出かける機会が増えるかと思いますが、体調管理には十分気をつけてお過ごしください。

またお忙しい中、図書館だよりの原稿執筆にご協力いただきました教員の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。来年も皆さまにとって良い年であることをお祈り申し上げます。

図書館からのお知らせ

冬季休業期間の長期貸出

期間：平成29年12月11日(月)～12月26日(火)
長期貸出返却日：平成30年1月11日(木)

春季休業期間の長期貸出

期間：平成30年1月20日(土)～3月30日(金)
長期貸出返却日：
卒業生・修了生……………3月20日(火)
OB・科目履修生・研究生…3月30日(金)
一般学生……………4月13日(金)

日曜特別開館(豊平校舎図書館のみ)

平成30年1月21日・28日 10:00～16:00

日曜・祝日以外の閉館日

冬季休業：平成29年12月27日(水)
～平成30年1月9日(火)

センター試験：平成30年1月13日(土)
入学試験準備：平成30年2月8日(木)
入学試験：平成30年2月9日(金)～2月12日(月)
蔵書点検：平成30年2月14日(水)～2月16日(金)

開館時間変更

センター試験準備日に伴う開館時間短縮：
平成30年1月12日(金)
9:00～17:00(図書館1階～3階)
10:00～17:00(図書館4階アクティブ・エリア)

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。今後の内容充実のために活用させていただきます。
なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

▶▶▶ lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp